

第 16 回世界作業療法士連盟大会・第 48 回日本作業療法学会 開催結果報告

1 開催概要

- (1)会 議 名:(和文)第 16 回世界作業療法士連盟大会・第 48 回日本作業療法学会
(英文)The 16th International Congress of the World Federation of Occupational Therapists in collaboration with the 48th Japanese Occupational Therapy Congress and Expo
- (2)主 催:一般社団法人日本作業療法士協会, 日本学術会議
- (3)後 援:厚生労働省, 文部科学省, 経済産業省, 神奈川県, 横浜市, 神奈川新聞社, 株式会社テレビ神奈川, 在日オーストラリア大使館, 駐日ノルウェー王国大使館, スウェーデン大使館, 一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会, 一般社団法人全国デイ・ケア協会, 一般社団法人日本介護支援専門員協会, 一般社団法人日本言語聴覚士協会, 一般社団法人日本訪問リハビリテーション協会, 一般社団法人日本リハビリテーション病院・施設協会, NPO 法人日本障害者協議会, 公益社団法人神奈川県医師会, 公益社団法人全国自治体病院協議会, 公益社団法人日本看護協会, 公益社団法人日本障がい者スポーツ協会, 公益社団法人日本精神科病院協会, 公益社団法人日本精神神経学会, 公益社団法人日本精神保健福祉士協会, 公益社団法人日本リハビリテーション医学会, 公益社団法人認知症の人と家族の会, 社会福祉法人日本介助犬協会, 公益社団法人 日本理学療法士協会, 全国地域リハビリテーション研究会, 全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会, 日本高次脳機能障害学会, 日本精神障害者リハビリテーション学会
- (4)母体団体:世界作業療法士連盟(WFOT:World Federation of Occupational Therapists)
- (5)開催期間:主会議 2014 年 6 月 17 日(火)～6 月 21 日(土)[5 日間]
※17 日は開会式及びウェルカムレセプションを実施
展示 2014 年 6 月 17 日(火)～6 月 21 日(土)[5 日間]
(一般公開:18 日～21 日)
- 【関連開催】
代表者会議 2014 年 6 月 9 日(月)～14 日(土)[6 日間](千葉)
Education Day 2014 年 6 月 16 日(月)
プレコングレスワークショップ: 2014 年 6 月 17 日(火)
- (6)開催場所:パシフィコ横浜(〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1)
- (7)参加状況:70 カ国/地域 6,031 人(国外 1,460 人、国内 4,571 人)

2 会議の意義と開催目的

我が国及び世界の作業療法士の持つ技術・知恵を集結し, 日本国内だけでなくアジア諸国・世界各国のリハビリテーションに関する作業療法の知識と技術の交流により, さらなる援助技術の向上と社会貢献を行うことを目的とする。

3 会議開催の経緯と概要

1) 会議の背景・経緯

第 16 回世界作業療法士連盟大会は, 世界作業療法士連盟 (World Federation of Occupational Therapists : WFOT) が 4 年ごとに開催する学術大会であり, 1954 年の第 1 回から当大会で 16 回を迎える世界の作業療法士の学術大会として最も歴史のある国際学会である。

2008 年 9 月にスロベニアで開催された第 28 回世界作業療法士連盟 (WFOT) 代表者会議において, 第 16 回世界作業療法士連盟大会を 2014 年 6 月に日本で開催することが決定された。こ

れを受け、日本作業療法士協会は、第16回世界作業療法士連盟大会実行委員会を2009年に設置し、日本での開催の準備を始めた。そして2010年5月にチリで開催された第29回世界作業療法士連盟代表者会議において、本学術大会は共同プロジェクトとして世界作業療法士連盟と開催国の共同企画という形態で運営されることが正式に決定された。

この世界大会はアジアで初めての開催であり、この度の日本開催では、世界のトップレベルの研究者が一堂に会し、最新の研究成果について討論や発表を行い、リハビリテーションにおける貢献と作業療法士の地位向上、その歴史の再認識・技術の応用展開を図ることを目的とした。

2) 学問的意義・研究の発展性等

作業療法は、理学療法や言語聴覚療法などと共に治療医学と相互補完するリハビリテーションの中核を成し、疾患や心身機能の障害に起因する日常生活の制限や社会参加の制約など、さまざまな生活障害の原因を医学的並びに心理社会的な学際的視野から究明し、その軽減、生活に障害がある人たちの生活の自律と再建を支援するものである。特に現在では、入院医療中心から地域生活中心へと進められる中、各国とも世界的な高齢化社会を迎え、超高齢化社会、さらには重大災害後の様々な生活障害に対する治療と支援のあり方が共通の課題となっており、学際的、そして国際的にその知識や技術の研究と成果の共有が求められ、医学的知識と技術を背景に生活障害を包括的に研究し実践する作業療法への関心が高まっている。

3) 今回会議のメインテーマ・主要題目等

この度の第16回世界作業療法士連盟大会は、日本の作業療法士協会が総力を挙げて取り組むものであり、同年の第48回日本作業療法士学会を兼ねて行うことが世界作業療法士連盟より認められ、大会名を第16回世界作業療法士連盟大会・第48回日本作業療法学会とし、「Sharing Traditions, Creating Futures (伝統を分かち、未来を創る)」をメインテーマに、8つのコングレステーマを設け、それぞれのテーマに沿って基調講演・シンポジウム・ワークショップ等多様な形態のセッションが行われた。その成果は、わが国のみならず世界の作業療法士の今後の活動の幅を広げ、人々の生活の支援と発展に大きく資するものとなった。

4) 日本開催による効果・市民公開講座開催の効果

この学術大会では、すべての口述プログラムと一部のポスター発表が英語・日本語のバイリンガルで行われた。さらに一部プログラムと展示は他職種や一般にも公開され、普段海外の情報に触れる機会の少ない現場で活躍する作業療法士やリハビリテーション関連職種の視野を拡張、国際的な交流と活動の幅を広げる機会となった。

4 会議構成

1) テーマ・主要題目

メインテーマ

「伝統を分かち、未来を創る (Sharing Traditions, Creating Futures)」

主要題目

1. 災害対策と復興支援 (Disaster Preparedness, Response and Recovery)
2. 多職種連携と作業療法の役割 (Inter-professional Collaboration and the Role of Occupational Therapy)
3. 作業療法の知：過去からの学び、未来への伝承 (Wisdom: Learning from the past, tradition for the future)
4. 作業療法の進展と挑戦 (Innovations and Challenges in Occupational Therapy)
5. 教育と研究：今何が求められているか (Education and Research: Meeting the demands from the field)

6. 根拠に基づいた実践と作業療法の質 (Evidence-based Practice and Quality of Occupational Therapy)
7. ひとの作業の本質 (The Nature of Human Occupation)
8. コミュニティと作業療法 (Community & Occupational Therapy)

2) 会議使用言語

日本語・英語（同時通訳：有り）※ 口演発表はすべて日英のバイリンガルで行う

3) 展示内容

学術・企業展示

WFOT をはじめ、各国・地域の作業療法士協会・団体・大学によるプロモーション出展、日本作業療法士協会の賛助会員企業及び海外の関連企業等による医療機器等の展示

企画展示

一般市民に向けた啓発活動の一環として、障害者の生活空間体験、障害者スポーツ体験のほか、全国の OT 協会の活動報告、リハビリテーション相談会、日本文化交流、写真展などを実施

5 会議の概要について

本大会は、一般社団法人 日本作業療法士協会、世界作業療法士連盟、および日本学術会議が主催し、厚生労働省や文部科学省、経済産業省をはじめ、神奈川県、横浜市などの後援により、平成 26 年 6 月 17 日（火）～21 日（土）の 5 日間（開会式を含む）、横浜市のパシフィコ横浜にて開催された。

また、本大会に先立ち、教育従事者を対象としたエデュケーションディ（Education Day）、プレコングレスワークショップを実施した。さらに、神奈川・東京近郊の福祉施設等を見学する施設見学を実施し、日本のリハビリテーションを取り巻く環境や現場におけるリハビリテーションの現状を国内外の参加者に紹介した。

1) 会議の日程

月日	プログラム	夜
6 月 16 日（月）	エデュケーションディ	
6 月 17 日（火）	プレコングレスワークショップ／開会式	ウェルカムレセプション
6 月 18 日（水）	WFOT レクチャーシップ、シンポジウム、口述発表、ポスター発表、ワークショップ	
6 月 19 日（木）	基調講演、WFOT プレナリーセッション、シンポジウム、口述発表、ポスター発表、ワークショップ	コングレスパーティ
6 月 20 日（金）	基調講演、シンポジウム、口述発表、ポスター発表、ワークショップ	
6 月 21 日（土）	基調講演、市民公開講座、口述発表、ポスター発表、ワークショップ、閉会式	

施設見学：東京都内 3 施設／神奈川県下 6 施設（6 月 18 日～20 日）

2) 会議の構成

開会式・閉会式の他、WFOT レクチャーシップ、WFOT プレナリーセッション、基調講演、シンポジウム、ワークショップ、口述発表、ポスター発表、市民公開講座を実施

【セッション数】

WFOT レクチャーシップ	1
WFOT プレナリーセッション	1
基調講演	3
シンポジウム	3
市民公開講座	1
ワークショップ	53

<一般発表>

スペシャルセッション	9
口述発表セッション	163

全 234 セッション

※ ポスター発表, プレコンgressプログラムは含まず

3) セッションテーマ

【SPECIAL SESSION／スペシャルセッション】 9 カテゴリ

- ・ 地域生活と評価・介入／Assessment and Intervention in Community Life
- ・ OT の実践力の開発／Capacity Development
- ・ 自動車運転評価法と訓練／Driving Assessment & Training
- ・ IT/生活支援機器／IT/Assistive Devices
- ・ 生活行為向上マネジメント／Management Tools for Daily Life Performance
- ・ 介入の新たな視点／New Perspectives on Intervention
- ・ 研究法／Research Methods
- ・ 評価手法の検討／Validation of Assessment Tools
- ・ 世界の作業療法事情／Worldwide OT Practice

【ORAL10／口述発表 10 分】 11 カテゴリ

- ・ 発達障害／Children 5 テーマ
- ・ 連携／Collaboration 1 テーマ
- ・ 地域・参加／Community & Participation 4 テーマ
- ・ 災害／Disaster 1 テーマ
- ・ 教育／Education 4 テーマ
- ・ 老年障害／Elderly 8 テーマ
- ・ 革新と挑戦／Challenge & Innovation 2 テーマ
- ・ 精神障害／Mental Health 4 テーマ
- ・ 作業／Occupation 1 テーマ
- ・ 身体障害／Physical Disabilities 13 テーマ
- ・ 研究・EBP／Research & EBP 8 テーマ

[計 51 テーマ]

【ORAL20／口述発表 20 分】 12 カテゴリ

- ・ 発達障害／Children 18 テーマ
- ・ 連携／Collaboration 2 テーマ
- ・ 地域・参加／Community & Participation 12 テーマ
- ・ 災害／Disaster 2 テーマ
- ・ 教育／Education 15 テーマ
- ・ 老年障害／Elderly 9 テーマ

- ・ 革新と挑戦／Challenge & Innovation 6 テーマ
 - ・ 精神障害／Mental Health 8 テーマ
 - ・ 作業／Occupation 8 テーマ
 - ・ 身体障害／Physical Disabilities 15 テーマ
 - ・ 研究・EBP／Research & EBP 13 テーマ
 - ・ 理論／Theory 4 テーマ
- [計 112 テーマ]

【GUIDED POSTER／座長付ポスター】 5 カテゴリー

- ・ 発達障害／Children
- ・ 教育・研究／Education and Research
- ・ 老年障害／Elderly
- ・ 精神障害／Mental Health
- ・ 身体障害／Physical Disabilities

【POSTER／ポスター】 13 カテゴリー

- ・ 革新と挑戦／Challenge & Innovation
- ・ 発達障害／Children
- ・ 連携／Collaboration
- ・ 地域・参加／Community & Participation
- ・ 災害／Disaster
- ・ 教育／Education
- ・ 老年障害／Elderly
- ・ 精神障害／Mental Health
- ・ 作業／Occupation
- ・ 身体障害／Physical Disabilities
- ・ 研究・EBP／Research & EBP
- ・ 理論／Theories
- ・ 作業療法の智／Wisdom

5 会議の出席者について

会議出席者数および参加国数については下記のとおり。

1) 会議参加者内訳

	会員	非会員	学生
早期事前	4,118	213	482
事前	132	21	35
当日	160	7	168
一日参加		389	140
個別プログラム参加			147
グラント・招聘者			16

参加者合計：6,031 名

【その他】

出展企業	276
展示会場一般参加	135
一般市民（市民公開講座／基調講演 3）	172
同伴者	70

学生ボランティア・他	335
------------	-----

その他参加者合計：988 名

2) 会議参加国内訳

No.	国名	人数	No.	国名	人数	No.	国名	人数
1	Albania	2	26	Italy	1	51	Rwanda	1
2	Argentina	6	27	Japan	4,571	52	Singapore	95
3	Australia	138	28	Korea	100	53	Slovenia	6
4	Austria	5	29	Kuwait	2	54	South Africa	35
5	Bangladesh	3	30	Kyrgyz Republic	1	55	Spain	2
6	Belgium	7	31	Latvia	2	56	Sri Lanka	1
7	Brazil	10	32	Macau	5	57	Sweden	107
8	Brunei Darussalam	3	33	Madagascar	1	58	Switzerland	23
9	Bulgaria	2	34	Malawi	1	59	Taiwan	88
10	Canada	78	35	Malaysia	14	60	Tajikistan	3
11	Chile	6	36	Mauritius	1	61	Thailand	24
12	China	9	37	Mexico	3	62	Trinidad And Tobago	2
13	Colombia	3	38	Namibia	2	63	Tunisia	1
14	Denmark	39	39	Netherlands	31	64	Turkey	6
15	Finland	4	40	New Zealand	11	65	Uganda	1
16	France	3	41	Nigeria	2	66	United Arab Emirates	2
17	Germany	16	42	Norway	27	67	United Kingdom	85
18	Greece	1	43	Pakistan	3	68	USA	279
19	Hong Kong	11	44	Peru	1	69	Vietnam	1
20	Iceland	7	45	Philippines	60	70	Zimbabwe	1
21	India	3	46	Portugal	3			
22	Indonesia	7	47	Puerto Rico	1		NA	2
23	Iran	3	48	Qatar	4			
24	Ireland	14	49	Romania	2			
25	Israel	36	50	Russia	1			
						合計		6,031
						(国内：4,571／海外：1,460)		

6 会議の成果について

1) 会議開催の意義・成果

本大会は、日本から約 4,500 名、海外から約 1,400 名、計 6,000 名を超える作業療法士を中心に、関連職種や一般参加者など総勢 7,000 名に及ぶ参加があり、作業療法を中心としたリハビリテーションに関する展望や臨床技術に関する学際的な研究成果を紹介し論議する機会となった。また海外 1,169 件、国内 1,184 件の発表があり、日本の臨床家や研究者にとっては諸外国の作業療法士との直接の交流により、具体的な理論や治療技法など多くの情報を知ることができ、今後の日本における臨床や研究を発展させる大きな契機になった。

さらに本大会では、特別に学生企画によるプログラムを設け、海外の学生約 150 名を含む 500 名を超える作業療法学生が集い、学生間交流や世界の著名な作業療法士と学生の交流など、次世代を担う若者たちの国際交流、日本の学生の国際化に大きな役割を果たした。

2) 日本が果たした役割

本大会は、少子高齢化、治療医学の進歩に伴う疾患構造の変化といった世界共通の社会的課題を背景に、災害対策と復興支援、多職種連携と作業療法の役割といった今日的テーマをはじめとし、作業療法教育と研究、根拠に基づいた作業療法、コミュニティと作業療法など基本的

なテーマまで、作業療法の全研究領域に関する成果の発表と討論が行われた。第一線の臨床家と教育研究者が口述発表やポスター、ワークショップなどを通して交流し議論する場を提供でき、各国の国民の健康に寄与する主に作業療法に関連するリハビリテーションの発展に貢献できた。

また、本大会は4年に一度開催され、今回16回目を迎えたが、アジアで初めて日本で開催されたことにより、アジア各国の医療保健福祉に関する諸事情の情報交換と今後の学术交流の基盤ができたことは大きな成果の一つであった。

そして、本大会では日本の臨床施設の見学ツアー、最新の福祉器機やロボットスーツ、自助具・補助具などの70社あまりに及ぶ業者展示、日本の文化や障害者スポーツ、障害者の作業所紹介などを一般公開で行い、参加者にとっては広く情報を収集する機会となり、関連企業にとっては情報提供と共に日本の技術を海外に紹介することに役立った。

3) 次回大会への動き

今回は2018年に南アフリカで開催され、閉会式において次回大会の紹介を行った。

4) 当大会開催中の様子

前大会から大会開催国の公用語と英語のバイリンガルで行われることになり、言語の壁を越えての参加が可能になったこともあるのか、各会場とも常に満席状態で、フロアでの交流も活発に行われ、事後のアンケートでも大会の構成、内容ともに大変好評であった。特別講演ではノーベル賞受賞作家大江健三郎氏の講演やスウェーデンルンド大学のスッサーン・イワルッソン博士の講演、寺山久美子日本作業療法士協会元会長の講演などがあった。また、「東日本大震災からの復興支援と作業療法」「認知症高齢者に対する作業療法の貢献」といった関心の深いテーマに関するシンポジウムが開かれ、それぞれ立ち見が出るほどであった。

5) その他

今大会に先立ち約2週間前から東京と千葉でそれぞれ世界作業療法士連盟の役員会や代表者会議も開かれ、会議の合間に各国の代表者とのさまざまな交流の場が設けられた。

また今回は天皇皇后両陛下がご臨席されたこと、組織委員や横浜市のボランティア、市内での市民の対応、街の環境の良さなど大会の内容以外に、特に海外の参加者からは日本を見直した、また日本に来てみたいといった声が事後のアンケートでたくさん聞かれた。



(主催者挨拶を述べる大西隆日本学術会議会長)



(来賓祝辞を述べる山本一太内閣府特命担当大臣)



(基調講演参加者風景)



(ポスターセッション風景)



(閉会式参加者風景)



(閉会式の様子)

7 一般市民への啓発活動・市民公開講座 開催概要

本大会では、一般市民に対する啓発活動の一環として、展示会場の一般公開、一般市民の大会参加、市民公開講座を行った。

1) 市民公開講座開催日時

2014年6月21日(土) 13:30～15:00

2) 開催場所

パシフィコ横浜

3) テーマ

感動があるからこそ、作業療法である！

～『当事者3人』と『作業療法士』とで作業療法の本質を考える

4) 参加数

一般市民約100名を含む計約870名が参加した。

5) 開催の意義

実際に作業療法を受けた当事者3名を中心としたシンポジウム形式で行われ、当事者による企画・実施を作業療法士が協力する形で行った。

治療する側からの目線ではなく当事者目線で病気や障害とは何か、そしてそれを乗り越えるときにどのような体験をし、何が有用だったのかといった体験談から、作業療法とは何か、作業療法はどのようにあるべきかといった作業療法の本質に迫るシンポジウムが開催された。



(市民公開講座の様子 1)



(作業療法を受けた当事者による講演の様子)